「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価準備レポート」についての
熊本県知事意見提出に係る知事コメント

令和２年７月豪雨という未曾有の災害を経験し、一日も早い球磨川流域の安全・安心の確保は喫緊の課題であり、流域住民の切実な願いです。
一方、かけがえのない財産であり、地域の宝である、清流球磨川・川辺川を子々孫々まで残したいという願いも、流域住民の心の中に深く刻み込まれています。
この「命と環境をともに守る」ことこそが、全ての流域住民に共通する心からの願いであることを、今回の環境影響評価の手続の中でも改めて確認することができました。

私は、この願いを実現するため、令和２年１１月に、流域の総合力で安全・安心を実現する、新たな流水型ダムを含む「緑の流域治水」を推進していくことを決断しました。その方向性は、令和４年８月に策定された「球磨川水系河川整備計画」にも位置付けられています。

新たな流水型ダムは、球磨川・川辺川流域の安全・安心を最大化すると共に、環境に極限まで配慮し、清流を守るものでなければなりません。私は、そのことを流域の皆様に確認いただくため、国に環境アセスメントの実施を求めました。

国においては、私の要請を真摯に受け止めていただき、これまで丁寧に環境影響評価の手続を進められ、最新の知見と技術力を結集して、治水機能の確保と環境への影響の最小化を追求されてこられました。
その結果、現時点において、球磨川・川辺川の環境に極限まで配慮された「命と清流を守る」新たな流水型ダムに限りなく近づいていると高く評価しています。

そして、これらの思いは、流域の安全に責任を持ち、流域の環境を守り、将来に引き継いでいく役割を担う国、県、球磨川流域の市町村の総意であると受け止めています。

今回、環境影響評価準備レポートに対する知事意見を述べますが、流域住民の皆様の中には、今なお新たな流水型ダムの環境への影響を懸念する声があります。しかし、この「命と清流を守る」新たな流水型ダムは、再び地域の対立を引き起こすことなく、地域との「共生」を図るものでなければなりません。
そのため、国においては、今後も、更なる環境影響の最小化を追求し、「命と清流を守る」新たな流水型ダムの早期整備を推進いただくとともに、引き続き、流域の皆様への丁寧な説明をお願いします。
県としては、国や流域市町村と連携し、人口減少、少子高齢化に苦しむ水没地域を含む流域の振興に全力で取り組んで参ります。
そして、引き続き、令和２年７月豪雨からの創造的復興に向けて、国、県、流域市町村が一体となって、新たな流水型ダムを含む「緑の流域治水」を推進して参ります。

最後に、事業者である国土交通省や有識者の皆様、御意見をいただいた住民の皆様等、全ての皆様の御協力と御尽力により、環境影響評価の手続が実施されたことに対し、心より感謝申し上げます。

令和６年４月１２日

熊本県知事　蒲島郁夫